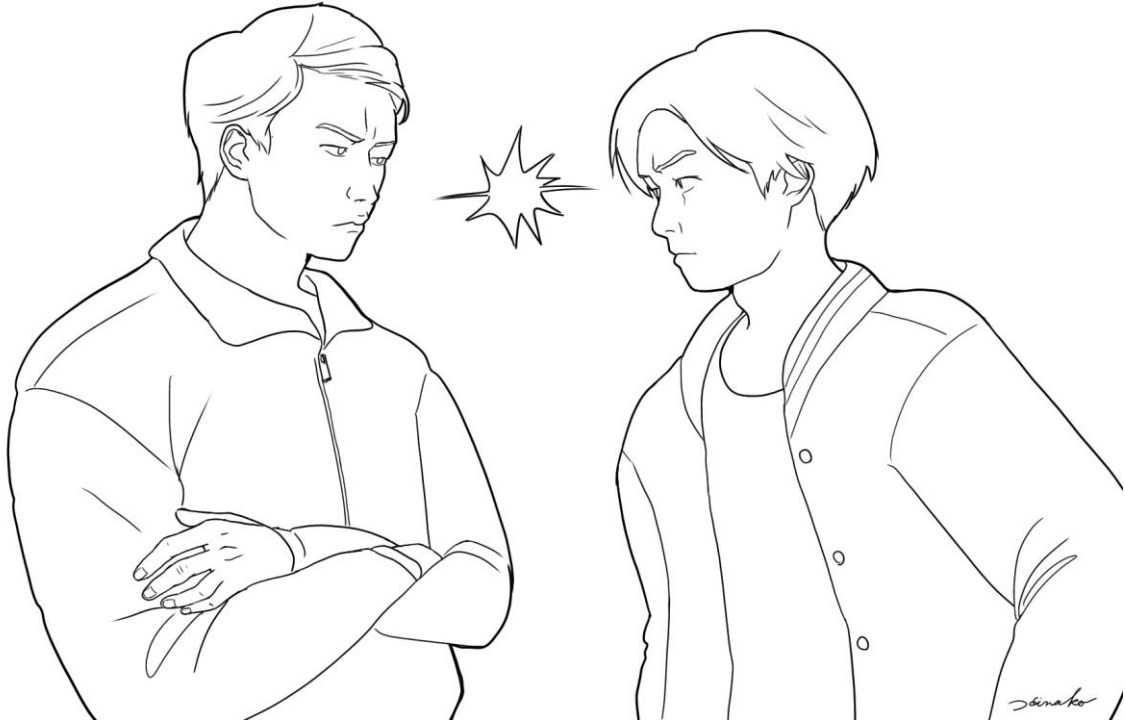


ゴールのないレース



(Drawn by Hinako FUJIMURA)

大学生のとき、私は友だちと一緒にバイクのクラブを作った。メンバーは 10 人ぐらいだった。あるとき、この中で誰が一番速いかという話になった。若者がよく考えることだ。メンバーの中に負けず嫌いが二人いた。

「俺が一番速い」

「いや、俺の方が速い」

二人はカーブが多い山道で勝負しようと言った。

勝負のとき。二人は山道の入り口に並んだ。そこがスタートで、山道を登る。私と他のメンバーは、カーブが続く山道が終わるところで待っていた。レースを始める前に二人はどうやってスタートの合図を出すか、しっかりと話し合っていた。

そして、スタート。力強いバイクの音になる。二台のバイクは大きな音を出しながら、山道を走った。私たちが待っている場所から二人のバイクは見えないが、いい勝負のようだ。バイクの音が近くなって、最後のカーブから出てくる二台のバイクが見えた。二台はほとんど横に並んで、私たちの前をすごいスピードで走って行った。

「ゴール！」

と思ったけれど、二台のバイクは止まらなかった。その先は行き止まりで道がない。このままでは、ガードレールにぶつかってしまう。

二人はスタートについてしっかりと話し合っていたが、どこをゴールにするか決めていなかったのだ。

「キキキッー」

急ブレーキの音になる。ガードレールの前で一台のバイクは止まった。一台は止まれずに、ガードレールにぶつかった。しかしラッキーなことに、二人にけがはなかった。

「俺は最後までブレーキをかけなかった」

「いや、止まれなかったからお前は負けだ」

二人の勝負が終わることはなかった。

(649 字)

(2021.4 Written by Toru YOSHIKAWA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.